

3. 新興メコン2カ国における質の高い救急医療サービスを提供できる人材の開発事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

近年 ASEAN においては、交通外傷、非感染性疾患（心疾患、脳卒中等）の増加を認め、疾病構造の変化によって同地域における救急医療サービスの需要が急激に増大している。

【活動内容】

ASEAN 救急医療体制構築支援を続けてきた NCGM 救命救急センターならびに他協力機関が、ラオス、カンボジアの国立病院救急部門ならびに他救急医療関係者に対する国内研修、現地研修を実施し、現地にて質の高い救急医療サービスを提供出来る人材の開発を行う。

【期待される成果や波及効果等】

本事業実施によって、ラオス、カンボジアにおける救急患者の蘇生率向上、後遺症軽減、公衆衛生危機への対応力向上、健康寿命先進地域の逸早い実現に繋がる事が期待される。

<研修実施結果>

国内研修（2017年9月、11日間、受入れ6名）

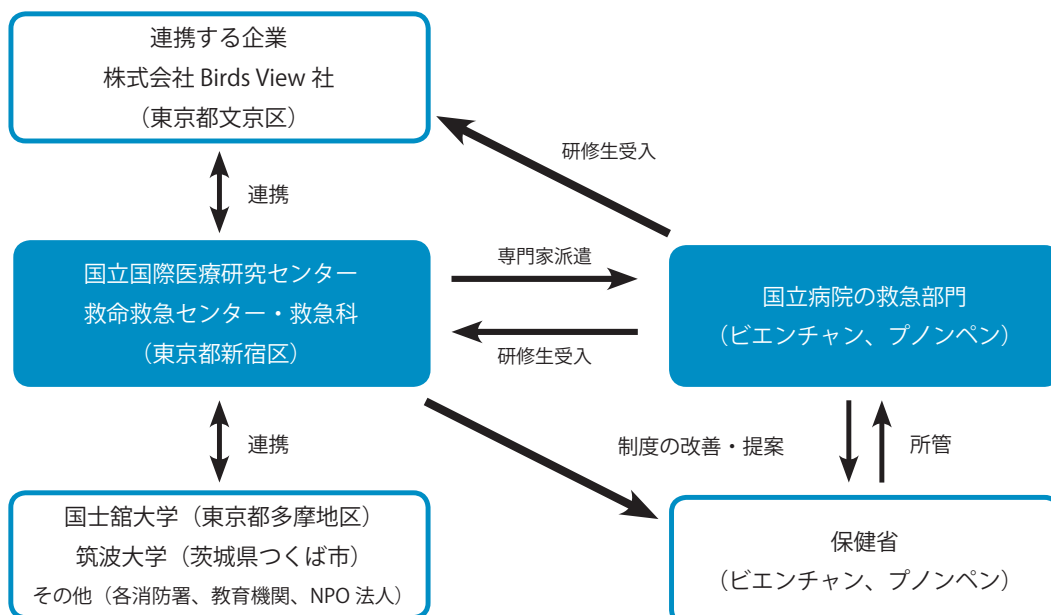
- ・講義、シミュレーション教育
- ・救急車同乗実習、関連施設視察
- ・救急医療情報に関する講義、演習

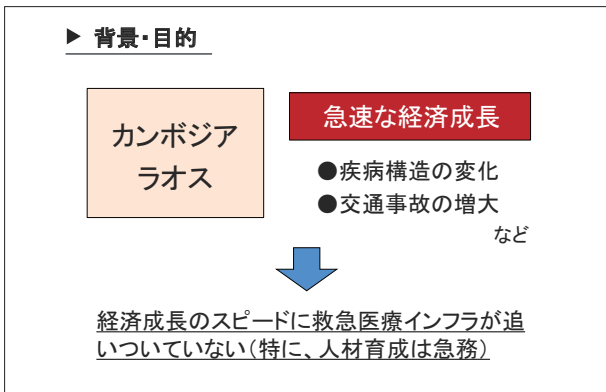
現地活動（カンボジア）

- ①（2017年9月、2～8日間、派遣6名）
- ②（2017年12月、数日～約1週間、派遣数未定）
 - ・現地指導者の育成、現地指導者による講義、シミュレーション研修開催の促進
 - ・マニュアル/テキスト、活動・診療指針等の作成

現地活動（ラオス）

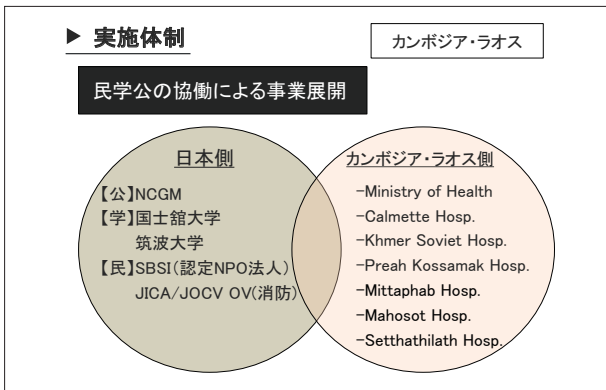
- ①（2017年9月、3日間、派遣2名）
- ②（2017年11月、数1週間、派遣数未定）





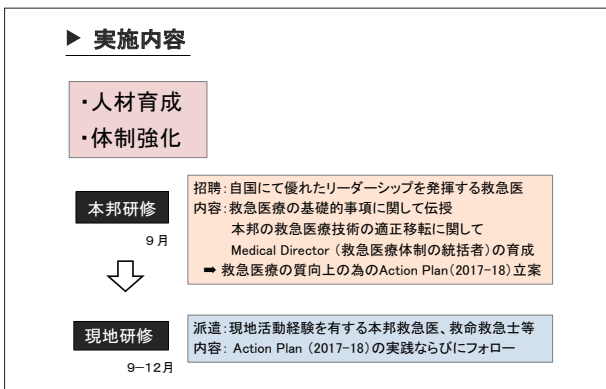
新興メコン2カ国における質の高い救急医療サービスを提供できる人材開発の活動についてご報告します。

背景ですが、アジアではモータリゼーションや疾病構造の急速な変化があり、救急医療のニーズが非常に高まっております。タイやベトナムではこれまでの支援を通じて救急医療が随分向上してきたのですが、カンボジアやラオスはまだ遅れているところがあります。特にラオスは遅れているところがあります。そこを支援してきました。



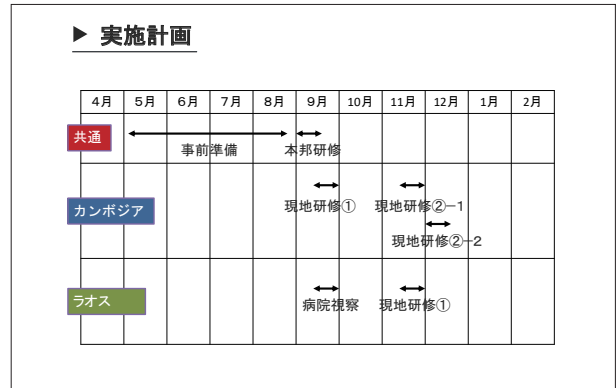
ニーズが高まってきたところにおいて他国のドナーも増えてきています。その中で我々は何のようなことができるかを考えて進めてきました。

日本側の実施体制ですが、我々 NCGM と救急救命医専門の講座と大学院を持つ国士館大学、グローバルヘルスに力を入れている筑波大学、そしてサイドバイサイドという NPO 法人です。相手国側は、主に保健省管轄のラオスとカンボジアのそれぞれの国立病院をカウンターパートにしています。

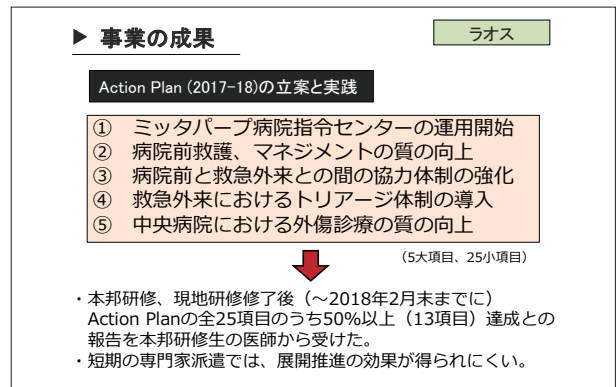


各国の人材育成の強化とシステム上の強化の両方を目的に、優れた人材を選定していただき、本邦研修を実施しました。そして

メディカル・ディレクターと呼ばれる、救急医療体制の全体をシームレスに統括できる人材の育成を主眼として研修を実施しました。そしてメディカル・ディレクターが自国に戻って、現地で研修を行ってもらい、広めてもらうという流れになっています。



こちらが実施のスケジュールです。準備段階として、現地に行って人材を選定してきました。また、国によって他国ドナーの支援状況や取り組み内容が異なりますので、その国に合わせた支援ニーズについて検討してきました。そして、本邦研修を2週間行いました。他国ドナーの研修に比較して、日本での研修は非常に密度が濃いとされました。その後、各国に行き、研修を行いました。



事業の成果についてお話しします。まずラオスですが、わりとのんびりしているので、なかなか短期間では成果が出にくい国です。本邦研修の最後にアクションプランを立てて、スライドにある5つの大項目を中心に実践していただきました。それらがどれだけでできたのか我々が現地調査に行きました。これまで漠然と教育が実施されたり、登録システムが使用されたりしていたのですが、細かく項目ごとにどれだけでできたのかを把握できるようになりました。確認したところ、50% くらいは達成していました。しかし、本事業に対する全体的な盛り上がりとしては、少し不足しているところがありました。

▶ 病院前救護教育の強化 カンボジア

- 訓練指導環境の整備 (現地語の教材・実技評価票・資器材整備など)
- 本邦研修によるMedical Director(MD)の育成
- 現地研修によるカンボジア人医師、看護師、救急隊員(27名)の育成
- 現地研修者からの選抜によるInstructorの育成
- MD及びInstructorとの協働による現地研修の実施
- カンボジア初のメディカルラリーの開催

カンボジアでは、カンボジア語のテキストを作成したり、日本での研修内容を実技的に復習したり、本邦研修生によるインストラクターの育成講座を開催したりしました。また、患者さんを救急車に乗せて病院に連れてきて病院内で治療するまでのリレー的なつながりを訓練するというメディカルラリーをカンボジアで初めて開催することができました。

▶ 教育の成果 カンボジア

事前事後評価 **WHOマトリックスを基に作成した評価票による各病院の評価**
 Matrix of essential knowledge, skills, equipment and supplies for prehospital providers (WHO 2005)

	研修実施前	研修実施後
First Aid (Basic) 54項目	10.5%	63.6%
Trauma Care (Basic) 152項目	20.6%	53.7%

※Essential, Desirable, Possible Requiredの項目に占める割合 ※各国立病院(3病院)の平均値

Action Planに掲げられた10項目のうち3項目を実施

事業の成果については、客観的に評価するためにWHOによるプレホスピタルケア(病院前救護)に関するチェックリストを活用しました。カンボジアでは、初期対応に関するベーシックな項目では、研修前は10%ほどしかできていなかったことが、研修後には63%ほどできるようになりました。また、外傷ケアに関しても最初は20%ほどしかできていませんでしたが、53%ほどできるようになりました。アクションプランに関しても、掲げた10項目のうち3項目を実施することができました。今回の2カ国においてはカンボジアの方がより達成できたことが多くありました。

▶ 事業の成果 カンボジア

- Medical Director(3名)及びInstructor(4名)の人材開発
 ➔ 参加型開発とキャパシティ開発の推進
- 保健省(局長)、各病院長、MD・Instructorとの協議
 ➔ 主体的な開発を促進するためのパートナーシップの構築

カンボジアでは、特にメディカル・ディレクターの研修を活発に行いまして、その中で4名のインストラクターが育成されまし

た。また、保健省と病院が主体となって本事業を積極的に推進していきましょうという合意が得られました。

▶ 平成30年度計画(案) 2カ国から1カ国へカンボジアに特化

① 保健人材・医療の質の向上

1. Instructor本邦研修(医師4名)
2. MD・Instructorによる研修未実施者への現地研修
3. MD・Instructorによる地方都市での現地研修の展開
4. EDの強化(傷病者受入側の能力向上)
5. 第2回メディカルラリーの開催
6. 学会/研究会を中心としたAction Planの具現化



2018年度も本事業を実施していく予定ですが、カンボジアに特化して成果を上げていこうと考えております。育成された優秀なインストラクター4名を日本に呼んでさらに教育したいと考えています。また、メディカルラリーの質を強化していく予定です。さらに、現在カンボジアには救急学会がないのですが、救急学会や研究会などを作り、アクションプランの具現化していきたいと考えております。以上です。ありがとうございました。